



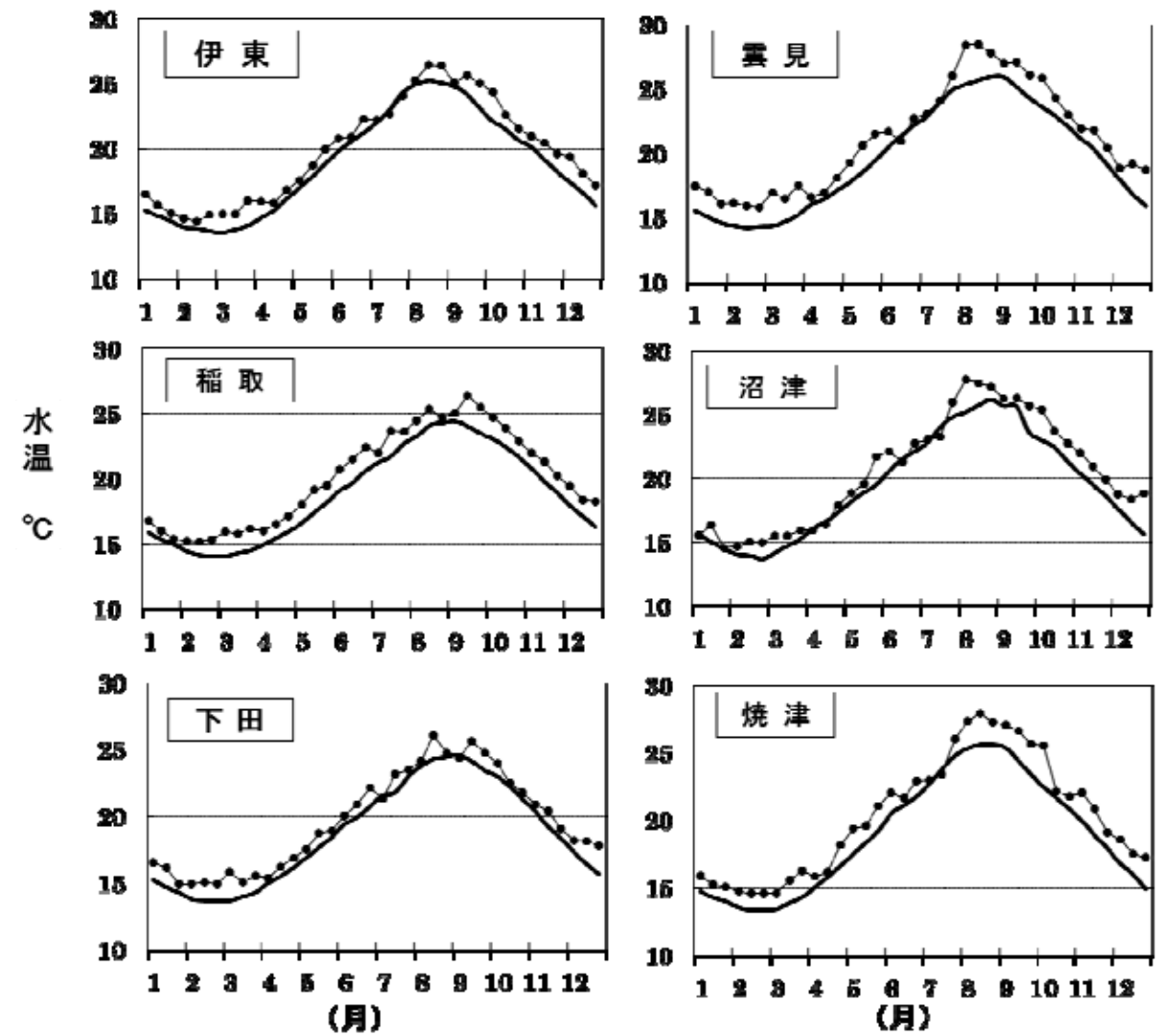
**[ 県下沿岸域 ]**

図3に令和元年の旬別の沿岸水温の変化を示した。

令和元年の県下沿岸水温は、全体をとおして高めの傾向で経過した。伊豆東岸では、3月、9～12月に断続的に「高め」、駿河湾では、3月、5月、8～12月に断続的に「高め」～「かなり高め」であった。

月ごとの測点別の沿岸水温は、次のとおりであった。

- 1月は伊東、焼津「やや高め」、稲取、沼津「平年並」～「やや高め」、下田、雲見「やや高め」～「高め」であった。
- 2月は伊東、稲取、下田、沼津、焼津「やや高め」、雲見「高め」であった。
- 3月は伊東、下田、焼津「やや高め」～「高め」、沼津「やや高め」、稲取「高め」、雲見「高め」～「かなり高め」であった。
- 4月は伊東、稲取「やや高め」、下田、沼津「平年並」～「やや高め」、雲見「やや高め」、焼津「平年並」～「高め」であった。
- 5月は伊東、下田「やや高め」、稲取、沼津、焼津「やや高め」～「高め」、雲見「高め」であった。
- 6月は伊東「やや高め」、雲見、沼津「平年並」～「やや高め」、下田、焼津「やや高め」～「高め」、稲取「高め」であった。
- 7月は伊東「平年並」、沼津、焼津「やや低め」～「やや高め」、下田、雲見「平年並」～「やや高め」、稲取「やや高め」～「高め」であった。
- 8月は伊東、稲取「平年並」～「やや高め」、下田「平年並」～「高め」、沼津「やや高め」～「高め」、焼津「高め」、雲見「高め」～「かなり高め」であった。
- 9月は伊東、下田「平年並」～「高め」、稲取、雲見、沼津「やや高め」～「高め」、焼津「高め」であった。
- 10月は伊東、稲取、雲見、沼津「やや高め」～「高め」、下田「平年並」～「やや高め」、雲見「やや高め」～「かなり高め」であった。
- 11月は伊東、下田「やや高め」、稲取、雲見、沼津、焼津「やや高め」～「高め」であった。
- 12月は伊東、焼津「高め」、稲取、下田「やや高め」～「高め」、雲見、沼津「やや高め」～「かなり高め」であった。



\*地頭方の水温観測は平成28年3月で終了しました。

—— 旬平均水温    ——— 平年水温

図3 令和元年の旬別沿岸水温

## [サバたもすくい棒受網]

### 1 たもすくい(平成31年1月～令和元年6月)

静岡県船のたもすくいの操業は、1月16日に大室出で、ゴマサバ主体で始まった。1月24日には利島でマサバ主体(マサバ比率87%)の操業を行い、今漁期のマサバ初漁となった。2月上旬まで同海域の水温は19 前後で推移し、盛漁となった。2月中旬には一時的に三宅島周辺海域にも漁場が形成されたが、2月下旬～4月上旬は銭洲が主漁場となった。ただし、4月上旬は銭洲海域の水温は20 前後となり、ゴマサバ主体の操業であったが、漁況は低調であった。このため、4月中旬以降は棒受網に転換した。棒受網転向後は三本やひょうたん瀬に漁場が形成されたが、5月以降マサバの割合が再び高まり、下旬には利島でマサバ主体のたもすくい操業を再開し、好漁となった。6月上旬は利島海域の水温が24 以上となり、今漁期のたもすくい操業は終漁した。

静岡県船のマサバCPUE(1夜1隻当たりの漁獲量)は17.0トンで前年(15.0トン)を上回った。平成31年1月～令和元年6月の一都三県主要7港<sup>1</sup>への水揚量は、マサバが3,202トンで前年(2,874トン)を上回り、ゴマサバが897トンで前年(1,216トン)を下回った。

1 千葉県：千倉・富浦、神奈川県：三崎・長井、静岡県：伊東・沼津・小川の7港。

### 2 棒受網(平成31年1月～令和元年12月)

棒受網による操業は1月14日にゴマサバ主体の操業で始まり、漁場は三本に形成され、CPUE(1夜1隻当たりの漁獲量)は13.8トンであった。その後、1月16日から4月上旬まで全船がたもすくい操業に転向し、主に北部海域や銭洲周辺海域でマサバ主体の操業を行った。マサバ漁況が低調となった4月中旬以降、静岡県船は棒受網による操業を再開し、漁場は4月下旬まで三宅島周辺海域に形成された。4月中旬の漁獲物中のマサバ比率は65%と、マサバの割合が高かったが、下旬にはゴマサバ主体の操業となった。5月になると三宅島周辺海域の漁況は低調となり、主な漁場は北部海域に形成された。北部海域は三宅島周辺海域と比べてマサバの割合が高く、5月上旬のマサバ比率は72%とマサバ主体の操業であった。これを受けて、下旬には再びたもすくい操業に転換し、マサバ主体の操業を行った。6月上旬に黒潮からの暖水が波及し、漁場水温が上昇したことによりマサバは漁獲されなくなり、静岡県船のほぼすべての船がゴマサバ主体の棒受網操業を行った。漁場は北部海域のひょうたん瀬に形成され、6月前半のCPUEは21.6トンであった。しかし、6月後半以降まとまった漁場形成は見られず、12月まで極めて低調な漁況が継続した。

令和元年の静岡県主要4港<sup>2</sup>における水揚量は、マサバは493トンで前年(238トン)を上回り、ゴマサバは1,146トンで前年(3,655トン)を下回った。また、ゴマサバCPUEは7.4トンで、前年(15.6トン)を下回った。

年齢別漁獲尾数の割合は、1歳魚(2018年級群)が7.5%、2歳魚(2018年級群)が22.2%、3歳魚(2017年級群)が50.6%、4歳(2015年級群)以上が19.7%であり、3歳魚が漁獲の主体となった。

2 伊東・静岡・沼津・小川の4港。

### 3 小川魚市場におけるさば類単価(表2)

令和元年の小川魚市場における棒受網(一部たもすくいも含む)のさば類月別単価は、マサバが81～177円/kg(1～6月)、ゴマサバが84～540円/kgであった。マサバは、近年水揚量が増加傾向にあるが、小型魚の割合が多く、価格は低調に推移している。ゴマサバは、水揚量の減少に伴い、高値で推移している。

表2 小川魚市場(焼津市)における棒受網・たもすくいのさば類月別単価

単位：円/kg

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	マサバ	409	295	119	106	83	108	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	120	198	111	88	78	88	87	169	109	106	94	83
平成28年	マサバ	203	134	142	105	228	-	324	-	-	-	-	183
	ゴマサバ	92	114	119	101	98	92	87	82	82	84	92	93
平成29年	マサバ	279	145	158	108	72	204	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	111	113	117	90	91	93	79	92	79	85	89	135
平成30年	マサバ	137	109	107	122	99	227	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	121	136	110	103	98	93	93	98	109	121	102	106
令和元年	マサバ	128	121	110	89	81	177	-	-	-	-	-	-
	ゴマサバ	118	119	117	99	85	84	123	88	540	128	128	130

**[サクラエビ船曳網]**

春漁は3月26日夜～5月31日夜にかけて操業が行われた。この春漁ではサクラエビの主産卵場である湾奥を禁漁区に設定する等の自主規制が導入された。出漁日数は16日、水揚量は85トンで、主な漁場は焼津沖及び相良沖に形成された（前年の出漁日数は19日、水揚量は312トン）。漁獲されたサクラエビの体長は平均体長38.4mmの0歳エビ（2018年級群）であった（図4）。

秋漁は10月23日夜～12月17日夜にかけて操業が行われた。この秋漁では産卵後の1歳エビ（平成30年生まれ）を主な水揚主体とし、来年春以降に産卵するエビとなる0歳エビ（2019年級群）を保護するための自主規制が導入された。出漁日数は21日、水揚量は90トンで、漁場は主に焼津沖～相良沖に形成された（前年は操業なし）。水揚げされたサクラエビは、平均体長39.5mmの1歳エビと平均体長31.5mmの0歳エビの2群で構成された（図5）。

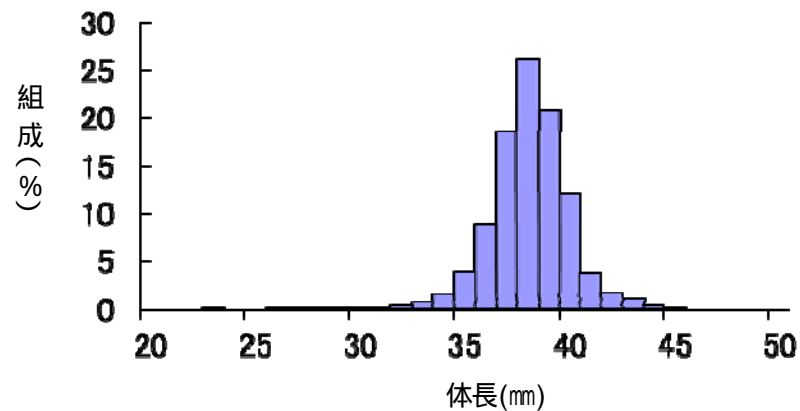


図4 令和元年春漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

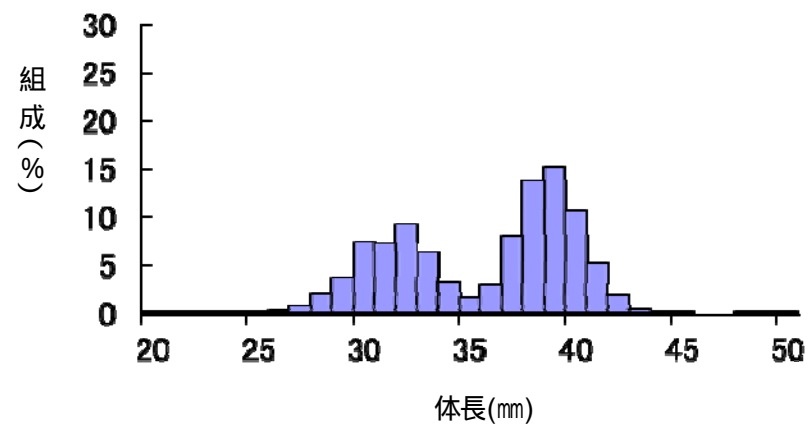


図5 令和元年秋漁で漁獲されたサクラエビの体長組成

**[竿釣り近海カツオ]**

1 水揚量と魚価

令和元年の静岡県主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は1,195トンで、前年の1,108トンを上回り、過去5か年平均（1,063トン）の1.1倍であった（表3、図6）。

魚価は322円/kgで前年（334円/kg）及び過去5か年平均（382円/kg）を下回った（表3、図7）。

2 漁況（漁場形成と魚体）

御前崎港での魚体測定及び漁場聞き取り調査から、漁況はおおむね次のとおり推移した（表3）。

- 1月 近海竿釣り船の水揚げが始まり、中南方海域(23°～27°N、140°～148°E)で操業し、極小(尾叉長38、40cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 2月 近海竿釣り船が中南方海域(22°～27°N、140～149°E)で操業し、極小(尾叉長モード42cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 3月 近海竿釣り船が中南方海域(24°～27°N、144～149°E)で操業し、中(尾叉長モード56cm)カツオを主体に水揚げした。また、沿岸竿釣り船による水揚げが始まり、伊豆諸島周辺海域(30°～31°N、138°～139°E)で操業し、小(尾叉長45cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 4月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(30°～34°N、137°～139°E)、駿河湾沖(34°～35°N、138°～139°E)及び大王崎沖(34°～35°N、137°～138°E)で操業し、小(尾叉長48cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 5月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(33°～34°N、138°～139°E)、駿河湾沖(34°～35°N、138°～139°E)及び大王崎沖(34°～35°N、137°～138°E)で操業し、小(尾叉長47cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 6月 沿岸、近海竿釣り船が駿河湾沖(34°～35°N、138°～139°E)及び潮岬沖(33°～34°N、136°～137°E)で操業し、小(尾叉長46cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 7月 沿岸竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(34°～35°N、139°～140°E)で操業し、小(尾叉長46cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 8月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(33°～34°N、138°～140°E)で操業し、小(尾叉長46cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 9月 沿岸、近海竿釣り船が伊豆諸島周辺海域(32°～35°N、138°～140°E)や駿河湾沖(34°～35°N、138°～139°E)で操業し、中(尾叉長51cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 10月 沿岸竿釣り船が駿河湾沖(34°～35°N、138°～139°E)で操業し、中(尾叉長53cmモード)カツオを主体に水揚げした。
- 11月 近海竿釣り船と沿岸竿釣り船が中カツオを主体に今漁期最後の水揚げをした(漁場、尾叉長モード不明)。
- 12月 水揚げなし

表3 令和元年近海・沿岸竿釣り船のカツオ水揚量等(県内主要5港)

年 月	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚/隻 (トン)	平均 単価 (円/kg)	主漁場と魚体 ( )内は尾叉長モード、単位はcm
H31年1月	7	1	6.6	236	中南方海域(38、40)
2月	86	5	17.3	207	中南方海域(42)
3月	90	25	3.6	300	中南方海域(56)、伊豆諸島周辺海域(45)
4月	150	49	3.1	518	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖、大王崎沖(48)
R1年5月	215	68	3.2	346	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖、大王崎沖(47)
6月	242	62	3.9	301	駿河湾沖、潮岬沖(46)
7月	76	33	2.3	307	伊豆諸島周辺海域(46)
8月	115	19	6.0	237	伊豆諸島周辺海域(46)
9月	160	39	4.1	233	伊豆諸島周辺海域、駿河湾沖(51)
10月	31	25	1.3	534	駿河湾沖(53)
11月	24	17	1.4	414	不明
12月	-	-	-	-	
R1年計	1,195	343	3.5	322	
H30年計	1,108	306	3.6	334	
5か年平均	1,063	292	3.2	382	平成26年～30年の平均

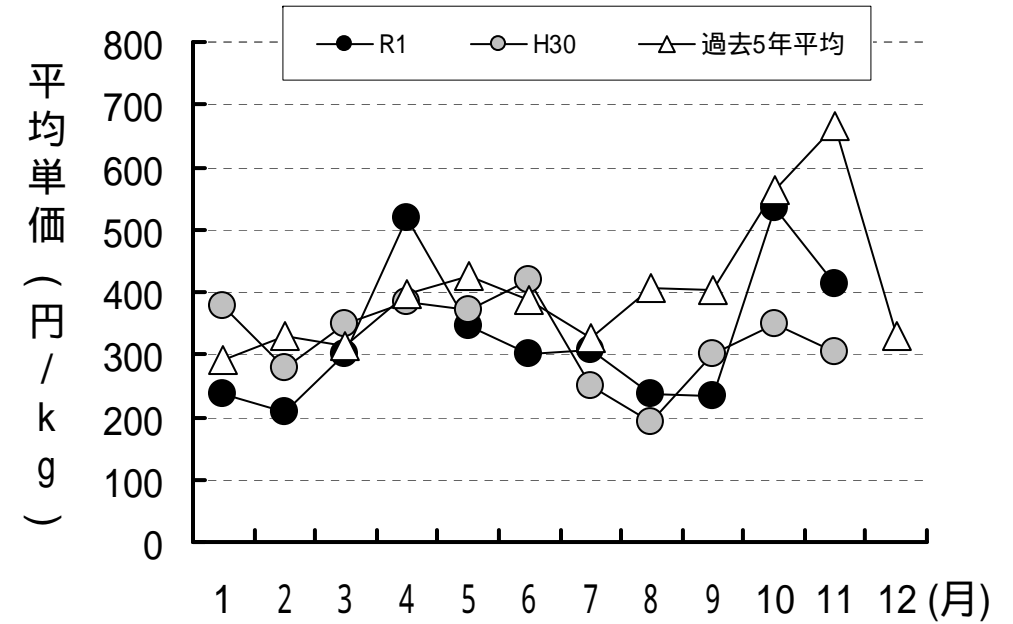


図7 近海・沿岸竿釣りカツオの平均単価の推移

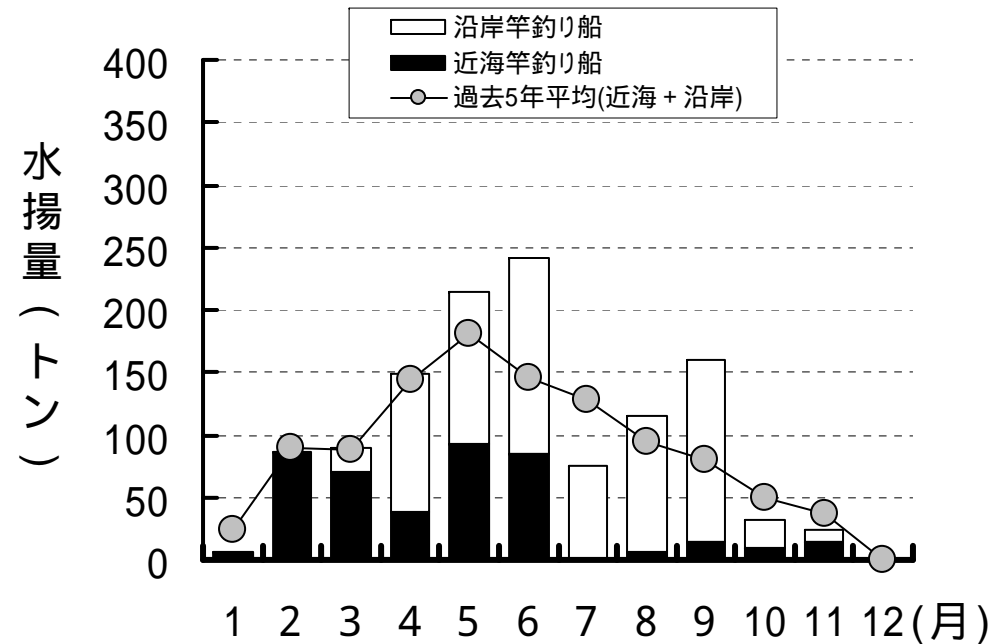


図6 近海・沿岸竿釣りカツオの月別水揚量の推移

[まき網(いわし類)]

1 マイワシ

令和元年における静浦漁港の総水揚量は0.2トンであった(前年0.2トン、平年0.7トン)。  
沼津港の総水揚量は、2,475.9トンで、前年(3,467.4トン)の71.4%、平年(3,205.5トン)の77.2%であった。最も水揚量が多かったのは2月で1,146.9トンであった。

小川港の総水揚量は、1,470.1トンで、前年(1,679.5トン)の87.5%、平年(1,323.2トン)の1.1倍であった。最も水揚量が多かったのは3月で628.6トンであった。

伊東港の総水揚量は、1,091.8トンで、前年(1,338.1トン)の81.6%、平年(767.9トン)の1.4倍であった。最も水揚量が多かったのは3月で313.2トンであった。

2 カタクチイワシ

令和元年における静浦漁港の水揚げは無かった(前年水揚なし、平年3.3トン)。

沼津港の水揚げも無かった。(前年21.6トン、平年126.0トン)

伊東港の総水揚量は2.4トンで、前年(31.1トン)の7.6%、平年(262.3トン)の0.9%であった。水揚げがあったのは6、8月のみであった。

\*平年：過去5年(平成26～30年)平均

**【シラス船曳網】**

操業は3月22日から始まり、令和元年漁期の主要6港（用宗、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居）における総水揚量は4,585トンで、前年（5,306トン）の86.4%、平年\*（6,823トン）の67.2%であった。また、総水揚金額は36億円で、前年（53億円）の67.9%、平年（43億円）の82.7%であった。平均単価は781円/kgで、前年（994円/kg）の78.6%、平年（635円/kg）の1.2倍であった。

各月の水揚量は、3、4、5月は304.1トン、446.7トン、1490.2トンと増加し、5月は今漁期最も多かった。6月は473.6トンと減少し、7～10月は858.1、286.8、480.2、160.1トンと増減した。11～1月は52.9、22.1、9.9トンと大きく減少した。

前年及び平年と比較すると3月は前年を下回り、平年を上回った（前年比62.0%、平年比1.4倍）、4月は前年、平年ともに下回った（30.3%、34.1%）、5月は前年を上回り、平年を下回った（1.2倍、72.0%）、6月は前年を上回り、平年を下回った（2.2倍、58.1%）、7月は前年、平年ともに上回った（2.9倍、2.5倍）、8月は前年を下回り、平年を上回った（90.3%、1.2倍）、9月は前年、平年ともに上回った（1.1倍、1.7倍）、10月以降は前年、平年ともに下回った（14.6～49.4%、9.6～21.5%）（図8）

シラスの漁況を魚種別にみると、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、最も水揚量が多かった月は、5月（1,378トン）であった。マイワシのシラスは3～6月と12～1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は3月（236トン）で、最も水揚割合が多かった月も同じく3月（77.7%）であった。ウルメイワシのシラスは3～6月と11～1月に漁獲され、最も水揚量が多かった月は3月（44トン）で、最も水揚割合が多かった月も同じく3月（14.5%）であった（図9）。マイワシのシラスの漁期を通じた水揚割合は親のマイワシ資源の増加とともに近年増加傾向にあるが、今漁期については昨年、平年を下回った（昨年比60.0%、平年比57.3%）（図10）

\*平年：過去5カ年（平成26～30年）平均

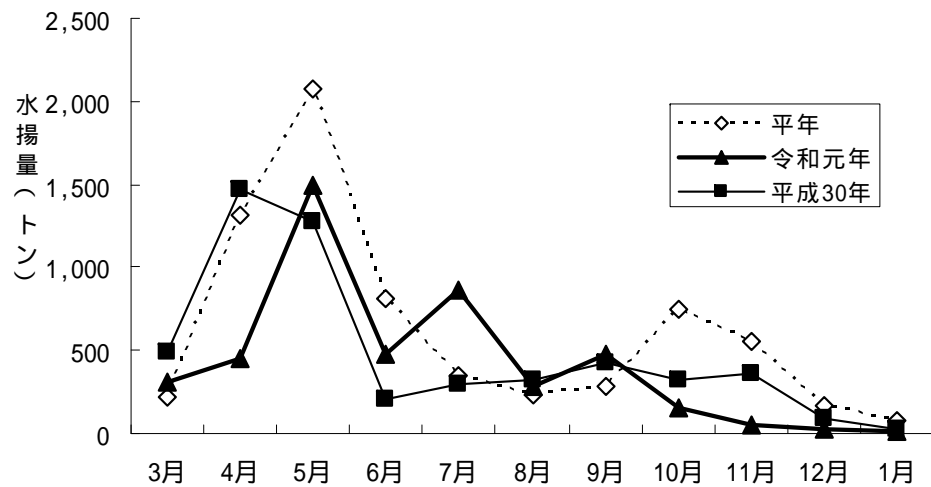


図8 令和元年漁期 主要6港 シラスの水揚量の推移

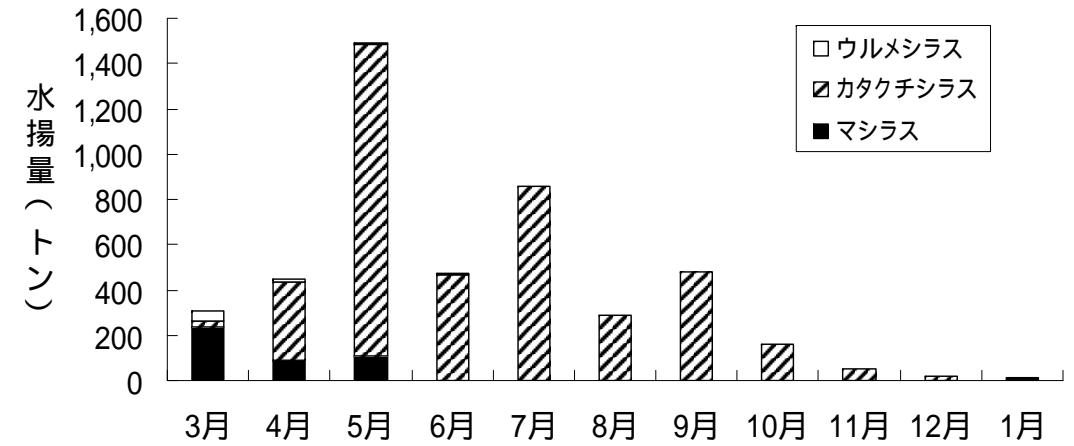


図9 令和元年漁期 主要6港 シラスの魚種別水揚量の推移

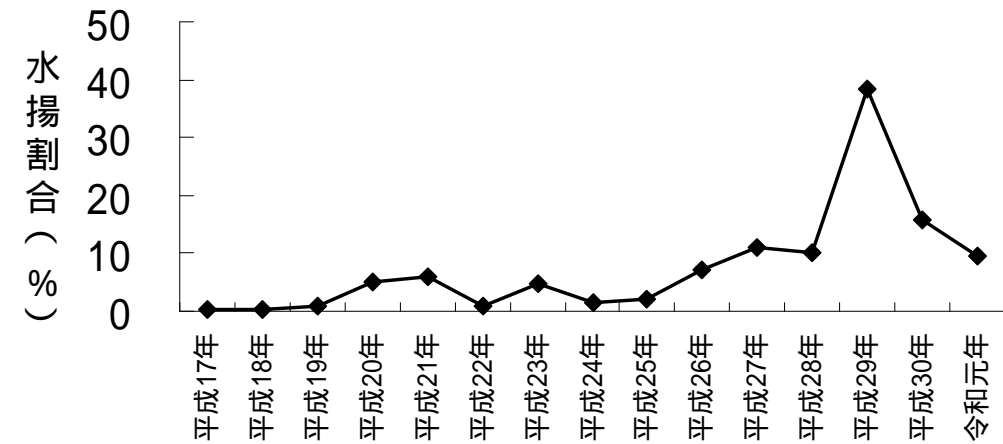


図10 マイワシのシラスの水揚割合の推移

**[定置網]**

令和元年の伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は2,391 トンで、前年水揚量3,023 トンの79%、平年値（昭和57年～平成30年平均）4,023 トンの59%であった。月別水揚量では10月を除き平年を下回る低調な漁獲であった(図11)。

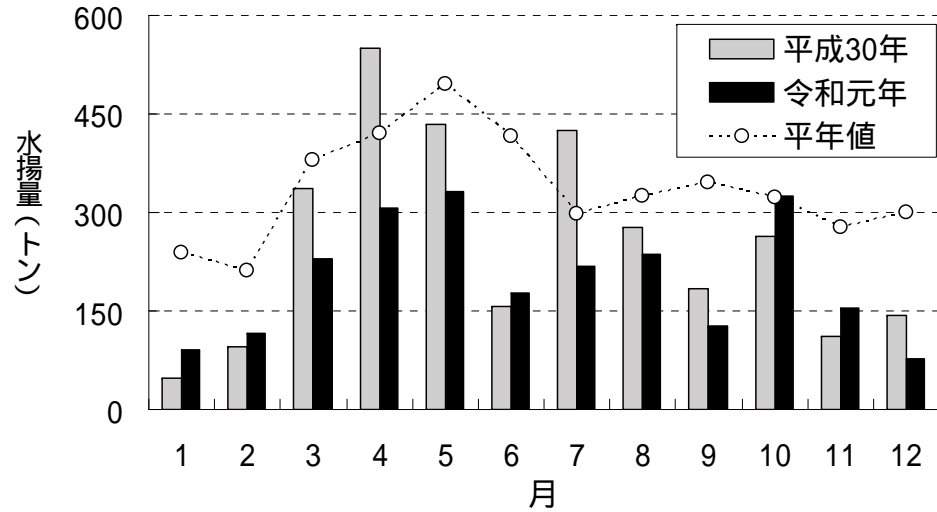


図11 月別水揚量の推移

漁場別水揚量は、富戸漁場を除き前年を下回った。水揚量の多かった漁場は、順に北川（さば類、ブリ、ヤマトカマス主体）伊豆山（さば類、ブリ、マイワシ主体）、古網（マイワシ、さば類、ブリ主体）漁場であった（図12）。

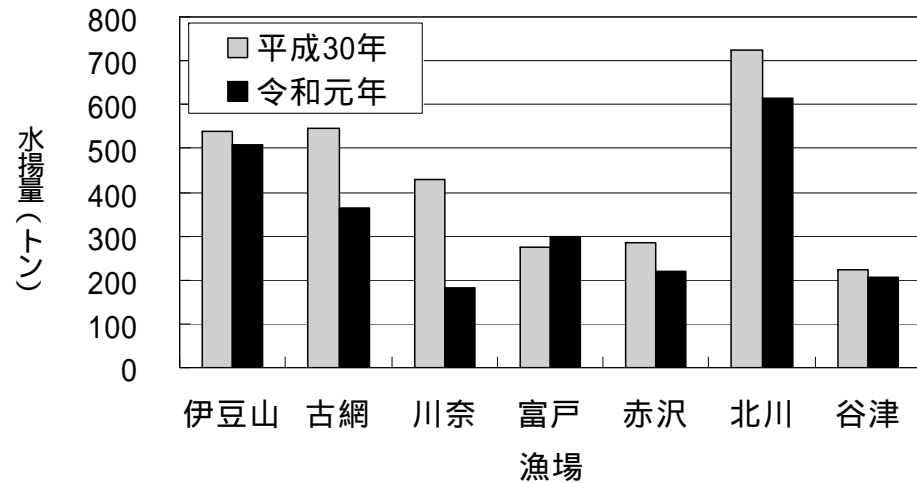


図12 漁場別水揚量

多獲された魚種（上位10種）の水揚量は表4のとおりで、ヤマトカマス、シイラ、マアジ、クサヤモロは前年を上回り、マルソウダ、スルメイカは前年並、さば類、ブリ、マイワシ、イサキは前年を下回った。

さば類は739 トンで、前年比73%、平年比74%と前年、平年を下回った。さば類のうち、ゴマサバは542 トンで、前年比89%、平年比59%、マサバは197 トンで、前年比48%、平年比2.9倍とマサバは平年を上回った。

ブリは366 トンで、前年比56%、平年比1.3倍、ぶり銘柄、わかし銘柄主体であった。ぶり銘柄は161 トンで前年比54%、平年比1.5倍であった。わかし銘柄は114 トンで前年比6.6倍、平年比5.7倍と、前年、平年を大きく上回り、特に11月は水揚量51.2 トン、前年比25倍、平年比31倍と特異的な入網であった。

マイワシは221 トンで、前年比44%、平年比64%であった。魚体は小羽～中羽主体であったが、2月は大羽主体の水揚げがあった。

マルソウダは124 トンで、前年比1.1倍、平年比48%であった。

ヤマトカマスは101 トンで、前年比1.9倍、平年比1.3倍であった。

また、クサヤモロの水揚量が50 トンを越えたのは平成14年以来であり、特に8月は水揚量22.0 トン、前年比711倍、平年比53倍と特異的な入網であった。

表4 多獲された魚種の水揚量

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比
さば類	739.3	0.73	0.74
ブリ	365.8	0.56	1.33
マイワシ	220.8	0.44	0.64
マルソウダ	123.7	1.06	0.48
ヤマトカマス	100.5	1.86	1.31
スルメイカ	95.8	1.03	0.46
シイラ	93.3	1.45	1.47
マアジ	59.1	1.35	0.10
クサヤモロ	58.7	229.42	13.06
イサキ	54.0	0.69	0.94

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

